

平成28年度
第1回徳島市総合教育会議

会議録

日 時	平成29年1月27日（金） 午後4時00分～午後5時15分		
場 所	徳島市役所 8階 庁議室		
出席者	職 名	氏 名	
	市 長	遠藤 彰良	
	教育委員会	委員長	佐藤 文子
		委員長職務代理者	濱野 正裕
		委 員	湊 暁美
		委 員	坂田 大輔
		委 員（教育長）	石井 博

1 開会

(企画政策局次長)

ただ今から、第1回徳島市総合教育会議を開催させていただきます。

2 出席者の紹介

(企画政策局次長)

今回は、本年度第1回目の会議でございますので、出席者の方々をご紹介いたします。

－ 出席者の紹介 －

3 徳島市長あいさつ

(企画政策局次長)

それでは、開会にあたりまして、遠藤市長からごあいさつを申し上げます。

(遠藤市長)

本日はお忙しい中、徳島市総合教育会議にご出席いただきましてありがとうございます。この総合教育会議は、御承知のとおり平成27年4月の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正によりまして、市長と教育委員がメンバーとなり、相互の意思疎通を図りながら、より一層民意を反映した教育行政を実現していこうという目的で設置されているものでございます。

昨年度は主に、本市の教育等の総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を掲げた「徳島市教育大綱」に関して、協議を行ったところでございます。

さて、本日の議題は「徳島市まちづくり総合ビジョンの策定及び素案について」と「総合ビジョンに関連する教育分野の施策等について」、意見交換をさせていただく予定としております。現在、徳島市の今後10年間を見据えた新たなまちづくりの指針となる「徳島市まちづくり総合ビジョン」の策定に、取り組んでいるところでございます。

まちづくりにおいて、まず大切なことは、多くの人々の共感が得られる未来のまちの姿を示すことであると思います。そして、それを実現するための具体的な施策に、市民の皆さんと行政が力を合わせて取り組むことが、「市民目線で、市民が主役の、市民のためのまちづくり」につながるものと考えております。そうしたことから総合ビジョンは、多くの市民の方々のご意見、ご提言を十分に反映した計画にしていきたいと思います。

本日は、総合教育会議ということで、教育に関する分野を重点的に取り上げさせていただきます。

いておりますが、教育委員の皆さまには、総合ビジョン全体についてのさまざまなご意見をいただきますよう、お願い申し上げまして、私のあいさつといたします。

4 教育委員長あいさつ

(企画政策局次長)

続きまして、佐藤教育委員長からごあいさつをお願いいたします。

(佐藤教育委員長)

失礼いたします。教育委員会を代表して、一言ごあいさつを申し上げます。

本日は、市長さんのお考えやご意見もお伺いしたり、情報交換を行う場をいただきましたことを大変うれしく思っております。

一昨年4月から、新教育長制度がスタートいたしました。この総合教育会議は、2回目の開催となります。この会議を通して、私ども教育委員会と市長さんがより緊密に連携を図り、徳島市の子どもたちの健やかな成長を願って、一丸となって教育行政に取り組むことができることを願っております。

この変化の激しい時代をたくましく生き抜く子どもたちを育てるために、私どもが知恵を出し合い、力を合わせて教育に取り組んでいかなければなりません。教育現場では子どもたちの成長を願って絶え間ない向上心を持って、教育に心血を注いでいる教職員の姿があります。また保護者の皆様にとって学校は、子どもたちの素晴らしい将来を夢見て、大事な子ども預けている大変重要な場所だと、私どもも認識いたしております。保護者の方々の熱い願いが込められていることを常々感じているところでございます。私どもは、保護者の願いを受け止め、真摯に教育に取り組む教職員を支援しながら、保護者や地域の皆様方のお助けもいただきながら、未来を担う子どもたちの育成に取り組んでいきたいと考えております。

難しい問題も山積いたしておりますが、市長さんのお力添えをいただきながら、精一杯これからも前進してまいりたいと思っておりますので、今後ともご支援いただけますようよろしくお願い申し上げます。最後になりますが、本日の総合教育会議が実り多い会となりますことをお祈りしながら、簡単ですが私のあいさつとさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

5 議題の説明

(企画政策局次長)

ありがとうございました。それでは、これから議題に移らせていただきますが、進行につきましては、当会議設置要綱第4条第1項の規定により、遠藤市長に議長をお願いいたします。市長よろしく願いいたします。

(遠藤市長)

それでは、早速、議題に入らせていただきます。

「徳島市まちづくり総合ビジョンの策定及び素案について」事務局から説明をお願いします。

(企画政策課長)

－ 資料1 を用いて説明 －

(教育委員会総務課長)

－ 資料2 を用いて説明 －

(遠藤市長)

ただいま事務局から、「徳島市まちづくり総合ビジョンの策定及び素案」と「総合ビジョン(素案)における教育分野の各施策の概要」について、説明がありました。

ただいまの説明につきまして、何かご意見等はございますでしょうか。総合教育会議ということで、教育に関する分野について重点的に説明がありましたが、総合ビジョン全体についてのご意見でも結構です。

(佐藤教育委員長)

子どもたちの教育施設についてですが、エアコンを導入してくださるということで、子どもたちはとても喜んでいらっしゃるところでございます。私どもからのお願いの一つでございしますが、温暖化の影響も受けて7月になりますと、昼からは勉強ができるような体制ではございません。9月も昔は涼しい風が入ってきていたのですが、この頃は非常に厳しい状況なので、運動会も春に移動するぐらい熱中症との戦いという状況の中で、市長さんがエアコンを導入してくださるということは、私どもにとって本当にうれしいこととございます。

さらに厚かましいのですが、子どもたちにとっては、学校のトイレに関する問題がございます。この頃の子どもたちは、洋式のトイレに慣れておりますので、特に男の子の場合には、トイレに行くことを我慢している子どもたちもたくさんおります。こうしたことが問題となっている中、エアコン導入が落ち着きましたら、トイレの洋式化も進めていただければありがたいと思っております。

(遠藤市長)

十分に承知しております。私が最初に教育委員会にお願いしたことが、エアコンとトイレの洋式化で、これを早く進めてほしいとお願いしたところでございます。

なお、この件に関しましては、この後、教育分野の個別の施策「エアコンの導入」のところでも詳しく扱わせていただきますので、そのときに改めて、伺わせていただきます。

(遠藤市長)

ほかに特にご意見・ご質問がないようでしたら、次の議題に進めさせていただきます。

それでは続きまして、総合ビジョンにおけるより具体的な取り組み内容に入りたいと思います。教育分野の中で、具体的な取り組みが進められている施策等を中心として、資料を用意していただいておりますので、それぞれ事務局からご説明をお願いしたいと思います。

なお、資料が多岐にわたっておりますので、施策ごとに説明をいただきます。

最初に、「施策 1-2 の学校教育の充実」にあります「国際化への対応」と「市立高校の充実」について、事務局から説明をお願いします。

(教育研究所長)

－ 国際化への対応における主な取り組みについて資料3を用いて説明 －

(徳島市立高校事務長)

－ 市立高校の充実における主な取り組みについて資料3を用いて説明 －

(遠藤市長)

ただいま事務局から、「国際化への対応」と「市立高校の充実」について説明がありました。

ただいまの説明につきまして、何かご意見等はございますか。

国際化への対応ということで、市立高校では、サギノー市との交換留学を実施しております。毎回ですが、留学から帰ってきた生徒がすごく生き生きと留学のよかった点を私に力説してくれます。また、生徒の皆さんには会うたびに、留学の募集人数の枠をもっと増やしてくださいと頼まれてきてね。それだけ、後輩たちのことを思っていることなのでしょうけどね。留学には、本市からの補助である約20万円のほかに、40万円程度の自己負担があると聞いております。こうした費用を負担してでも、多くの生徒の皆さんから留学したいという要望がある実情からしても、生きている英語に接するという事は、本当に大事なことだと思っています。

(佐藤教育委員長)

A L Tが4名増員予定ということになっております。

(石井教育長)

A L Tの増員については、毎年要望を出しておりましたが、なかなか実現しなかったのですが、昨年、市長に教育の現状について説明させていただいたときに、市長からA L Tは大事だというお話をいただきましたので、教育研究所も随分力を入れて折衝を行った次第でございます。

(遠藤市長)

子どもたちに英語を教えるということで、小学校の先生の負担は、非常に大きいでしょうね。

(坂田委員)

そうですね。私も以前、小学校の教員をしております、授業は担任の先生が中心に行うものですが、話すレベルの英語となると、英語が堪能な先生は大丈夫かもしれませんが、なかなか難しいと思います。ですので、ALTの先生がいらっしやると、ALTの先生でなくても、日本人で英語が堪能な方でも良いと思いますが、こういったサポートがあると、担任の先生の負担は激減すると思います。

(遠藤市長)

先生は本当に大変だと思います。ALTの方が増えることは、子どもはもちろんのこと、担任の先生方の負担等も考えますと大変良いことだと思います。

市立高校については、いかがでしょうか。

(濱野教育委員長職務代理者)

市立高校では、さまざまな事業をされていますよね。多くの事業が行われていることは良いことではありますが、現場の先生にとっては、大変だと思います。例えば、もう少し事業を絞って実施されても良いのではないかと思います。

(徳島市立高校事務長)

こうした市立高校の事業については、校長先生を中心に、先生方が検討されて、生徒たちのためにという観点から、事業を計画しております。

(石井教育長)

市立高校の各取り組みについては、現場でよく相談し合っただけの提案や企画された取り組みですので、先生方としても進めていきやすいと思います。

(湊委員)

今回の市立高校の取り組みは、魅力的な事業が満載だと思います。やはり、これからの子どもたちや保護者、地域の方々に市立高校はこのような素晴らしい学校だということを、もう少し発信していくことが必要だと思います。

(遠藤市長)

市立高校につきましても、もっとPRできる方法がないかということを考えていきたいと思っています。

(湊委員)

子どもさんがいらっしゃる方は、学校に興味があると思いますので、目が向くと思いますが、それ以外の年齢層の方は、あまり学校に日ごろから親しみがないと思いますので、「市立高校愛」をいろいろな世代の方の皆さんにわかっていただくためにも、発信することが大事だと思います。

(遠藤市長)

はい、確かに思います。

(佐藤委員長)

この計画は地域密着型というか、地域ともっと連携を深くしてというねらいが込められているように感じます。高校生はどちらかというと、受験勉強とか学校の中に目が向きがちなところを、地域の方へ目を向けるように、そしていろいろなことを体験していく計画なので、子どもたちが広く豊かになっていく良い計画だと拝見いたしました。

(遠藤市長)

国際化に関しては、徳島市に英語村をつくれないう話、現在手さぐりで進めているところがございます。これができたら子どもたちにとって良いことではないかと思って、何とか考えているところではあります。

(石井教育長)

本日、定例の教育委員会を開催したのですが、その会でも、佐藤委員長から英語村の実施を検討してはどうか、という話がありました。

(佐藤委員長)

中学校の教員を通して伺ったお話ですが、英語については、中学から英語を学び始めた時代の生徒たちは、初めてということで、生き生きと英語に取り組んでいたそうです。それが、今の子どもたちは、失礼な言い方ですが、小学校ですでに英語に触れてしまうために、英語は大変だとか、英語が嫌になって、中学に入学する生徒がいるというのも事実のようです。今後、次期学習指導要領によりますと、これまで小学校の5・6年生が行っていた外国語活動が3・4年生に下りてくるようですので、特に3・4年生への英語教育のあり方、英語との出会いが教育委員会にとっても重要な課題であると考えています。そうしますと、英語村とかいろいろところで実際に生きた英語に接することなど、子どもたちにとって何が大切なことかと考えましたら、外国の人に私の英語が通じたとか、英語を使ったことでの喜びみたいなものを子どもたちが実感することによって英語への意欲が増していく気がしますけどね。ただ、子どもたちに聞くと、最初はゲーム感覚の英語なのに、突如として単語を覚えたり、難しい文法を書いたりしていく段階で英語に対する興味がなくなっていくと言います。

そうした中で、小学校の英語教育は非常に大切なので、ALTさんとか、サポーターの皆さんとか、いろいろな施策を通して、子どもたちに本当の英語に接する機会をどんどん提供していくことは、私たち教育行政に携わる者として、とても大事なことであると思っております。

(遠藤市長)

私としましても、英語村はぜひ行っていきたいと思っています。それでは、次に進ませていただきます。

「施策 1-3 の教育環境の向上」にあります「エアコンの導入」と「ICT環境の整備」について、事務局から説明をお願いします。

(教育総務課長)

－ エアコンの導入における主な取り組みについて資料3を用いて説明 －

(教育研究所長)

－ ICT環境の整備における主な取り組みについて資料3を用いて説明 －

(遠藤市長)

ただいま事務局から、「エアコンの導入」と「ICT環境の整備」について説明がありました。

先ほど、佐藤委員長からもご意見をいただきましたが、私も周辺市町村ではエアコン導入率が100%のところもけっこうありまして、あまりにも徳島市の子どもたちが可哀そうだと思っておりました。生まれたところによってこんなにも環境が違うのかということを実感し、徳島市を調べたところ、3～4%という実態にさらに驚いたところでございます。そこで、できるだけ早く整備したいと考えまして、検討した結果、早くても3年ほどかかりますが、整備することといたしました。

ほかに、エアコンとかICT関係でとか何かございますでしょうか。

(濱野教育委員長職務代理者)

ICT関係で申しますと、エドテックという言葉がありまして、エデュケーションとテクノロジーを融合させた造語だそうですが、学校現場の活用ということを考えますと、日本はすごく遅れているみたいです。日本におきましては「エドテックについて文章を書く」というレベルらしいのですが、海外では、「エドテックで何ができるのか」と、そこまで具体的に進めているみたいです。こうした分野にもどんどん投資していかなければいけないところだと思っております。

(坂田委員)

ICT環境についてですが、近年、すごく整備されてきていますが、例えば今回の電子黒板やタブレット端末ですが、これらを使ううえで、ソフト面がどうかという点が課題のように思います。例えば、全員に1台タブレットがあったとしても、授業で使うとなると、子どもたちの端末の使用状況を把握できるような、スカイメニューのようなソフトの準備をしていくことと、それを先生が使えるかということで研修の充実といいますか。このあたりの課題も合わせて、取り組みを進めていただけたらと思います。

(遠藤市長)

はい、ありがとうございました。ほかにはよろしいでしょうか。それでは、最後に、「施策1-4の青少年の健全育成」にあります「いじめ・不登校の防止」について、事務局から説明をお願いします。

(教育研究所長)

ー 不登校問題における主な取り組みについて資料3を用いて説明 ー

(青少年育成補導センター所長)

ー いじめ問題における主な取り組みについて資料3を用いて説明 ー

(遠藤市長)

「いじめ・不登校の防止」について説明がありました。

ただいまの説明につきまして、何かご意見等はございますか。

(佐藤委員長)

すだち学級と学生メンタルサポーターの派遣は、大きな成果を挙げていると思います。すだち学級に行くことができることで、出席日数にもなりますし、すだち学級に来られない子どもたちも、サポーターの人との人間関係が契機となって、学校に行くことができるようになるといったこともあり、こうしたいろいろな取り組みがなされていることはありがたいと思っております。

(遠藤市長)

ほかには何かございますでしょうか。

(石井教育長)

最近、インターネットに関するいじめなどが非常に多い中で、ネットパトロールといった対応を民間企業にお願いしています。このことについて、青少年補導センターから説明していただけますか。

(青少年育成補導センター所長)

SNSによるネットいじめ等のトラブルに対応するため、インターネット上での誹謗中傷や個人情報の流出、問題のある書き込みなどの検索を民間企業に依頼し、発見した情報を内容によっては学校に提供しています。

また、先ほども説明させていただきましたが、ネットいじめ等の一層の啓発を推進するために、検索をしてくださっている方を講師に招き、各学校・地域で講演会を開催しております。例えば、講演会では講師の方が、検索をしているときに発見した危険と思われる画像などの情報を、教員や子どもたちに見せることで、ネット問題の重大さ、深刻さを伝えていただいております。子どもたちもそうした情報を実際に見ることで、自分たちのネットに対する行動が非常に危険な状況につながっていくということに、気づくようです。さらには、昨年、市立高校で行った同様の講演会でも、生徒たちに大きな反響があり、校長先生にネットパトロールの必要性を理解していただきました。そういった最近の子どもたちのネットに対する安易な考え方が広まっている中で、こうした対策は非常に効果があると考えております。

(遠藤市長)

今、いじめ問題で全国ニュースになっていますのが、横浜市の教育長が、「約150万円の金銭をおごらされたことは、いじめとは認められない」と発言したことで、大きな話題となっております。非常に難しい問題ではありますが、認めるべきことは認めて、主張すべきことは主張していくという視点が大事だと思います。

このほか、ご意見ございますでしょうか。

(坂田委員)

私は徳島大学に所属していまして、先ほどお話ありました学習支援ボランティアや英語活動サポーターの派遣事業の案内を当大学にも毎年いただいております。総合科学部の学生を派遣させていただいております。中学や高校の教員免許を取っている総合科学部の学生は、留学している学生が多いです。現在、英語活動サポーターの派遣は小学校だけですが、例えば中学校の英語の授業のサポーターやボランティアとしての依頼がございましたら、学生を派遣させていただきますので、ご検討いただけたらと思います。

(遠藤市長)

大変ありがたい話であり、子どもたちのためにもなりますので、ぜひ検討していただきたいと思います。

(坂田委員)

学生にとっても良い経験になりますので、よろしく申し上げます。

(石井教育長)

行政にとっては、知恵を絞って、ゼロ予算で事業の効果をあげていくことは非常に重要なことです。

(濱野教育委員長職務代理者)

全体的な話になりますが、少子高齢化がどんどん進む中、行政の方には、近未来志向を持って、始動してほしいと思います。今、若い人が徳島に住み続けたい、帰ってきたいと思うような街になっているのかと。松山や高松などはいろいろな面で本市よりも先行して進んでいると思います。こうした中、若い人が徳島をどのように考えているのかと。これからは、人口が増えていくということは難しいにしろ、より減っていく状況は抑えたいと思っています。今後は、時間がないという考えで、近未来志向を持って、行政の方には動いていただけたらと思います。

(遠藤市長)

ありがとうございました。何かほかにございませんでしょうか。

本日は、徳島市まちづくり総合ビジョン（素案）やそれに関連する教育分野の施策等について説明をし、委員の皆様からさまざまなご意見をいただきました。

いただきましたご意見も踏まえ、今後も策定に向け取り組んでまいりたいと思います。

8 閉会

(遠藤市長)

以上をもちまして、平成28年度第1回徳島市総合教育会議を終了いたします。

本日は、皆様、ありがとうございました。